HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	人社系部局URAの研究推進の展望について
Author(s)	森岡, 和子; 中野, 悦子; 栗谷, 尚子
Description	RA協議会第1回年次大会. 2015年9月1日(火)-9月2日(金). 主催：リサーチ・アドミニストレーター協議会. 信州大学長野（工学）キャンパス. 長野
Issue Date	2015-09-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/96172
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/
Type	conference poster
File Information	2015RA_P_36.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

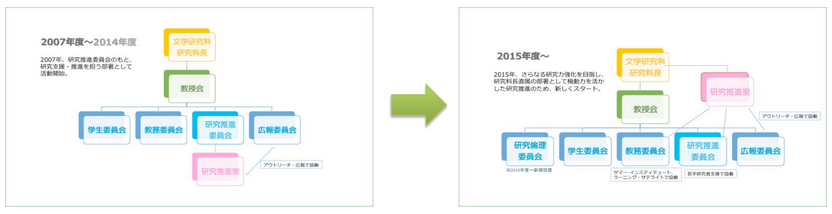
北海道大学大学院文学研究科 研究推進室
○森岡 和子　中野 悦子　栗谷 尚子

― 人社系部局URAの研究推進の展望について―

北海道大学大学院文学研究科では、2007年度より研究推進室を設立し、若手研究者支援と研究広報を中心に業務を行ってきた。競争的資金獲得、プロジェクト企画立案、研究力分析など研究推進に関する業務拡張の要請に対応するため、2015年度より研究推進室の室員をURA3名体制とし、より一層の研究力強化をめざし研究推進室の機能拡充を進めている。われわれの事例紹介を通して、ありうべき人社系部局研究推進の展望について議論を深めたい。

新たな研究推進業務

新たな研究推進体制　研究科長直属の機動力ある組織へ



科研費支援　事前準備～プレアワード～ポストアワードまで

○事前打合わせ旅費支援

大型科研費へのステップアップを支援。北海道という"地の不利"を克服するために、研究グループ形成の打ち合わせ旅費を支給。

○申請書作成支援（プレアワード）

全学の支援と連携しつつ、部局ならではの対応が可能。
個別事情に合わせた情報提供・ペースメイク、予算に関するアドバイス、分担者からの情報集約、レイアウト・表現の改善提案、誤字・脱字チェック。

○採択後支援（ポストアワード）

教員、事務職員の負担を軽減し、大型科研費への申請インセンティブの向上、科研費の更なる積極活用につなげる。シンポジウム・研究会開催に係る研究者招へいやロジスティクス支援、報告書作成支援、研究分担者との連絡調整、札幌以外に滞在する研究代表者の物品購入支援、研究科ウェブサイトにおける広報支援。

研究力分析・情報基盤整備　研究戦略企画立案に向けて

○研究業績集約

リサーチマップ入力支援：人社系の事情に対応したFAQと入力支援情報を提供。
6か月以内の更新率の大幅アップ　2015年１月：22% → 2015年８月：96%

○評価資料作成・分析

外部評価、期間評価用の資料の作成、研究科の強み分析、執行部に報告と提言。

○部局内部向け情報ポータルサイトの制作

各種事務手続きマニュアル・書式、研究支援情報などが掲載されたポータルサイトにより情報基盤を整備。研究者および事務職員双方の省力化を図る。

グローバル化支援　グローバル教育改革にも参画

「スーパーグローバル大学創生支援」採択構想 Hokkaido ユニバーサルキャンパス・イニシアチブの一環として全学で展開中の教育改革プログラムに積極的に参加。事務職員と協働して申請・実施支援。

○サマー・インスティテュート

～海外のトップランナーと本学教員が冷涼な夏の札幌で協働授業

2015年：2件の実施支援　アルバータ大学：23名参加　ハワイ大学：17名参加
2016年：7件を企画準備中
アルバータ大学・ハワイ大学・UCLA・ルーヴェン・カトリック大学
アムステルダム大学・CNRS・本研究科オリジナル

○海外ラーニングサテライト

～海外の大学と連携して北海道大学の授業を開講

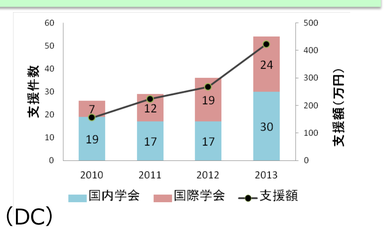
香港中文大学との相互教育プログラムの実施支援
2015年：北海道大学にて実施　25名参加
2016年：香港中文大学にて実施予定

従来からの支援業務

若手研究者支援　研究者の卵からアカポスまで

○院生旅費支援・校閲費支援（MC・DC）

＜旅費＞大学院生の国際学会・全国学会での研究発表に対する旅費を支援する。調査、フィールドワークも支援の対象。初めて申請書を書く院生には、申請書の書き方指導も行っている。
＜校閲費＞国際学術雑誌・本研究科の英文ジャーナル等への投稿支援。投稿原稿や国際学会発表原稿の校閲費を支援する。



○RA(リサーチ・アシスタント) 成果報告ポスター作成支援（DC）

○若手研究者支援セミナー（MC・DC・PD）

学振申請書の書き方セミナー

人社系領域への申請に向けたアドバイス、研究の進め方、研究者としての心構えなど、幅広い話題を提供。2012：47名　2013：30名　2014：63名　2015：60名が参加。

学術図書出版セミナー

研究書出版の豊富な経験をもつ教員や出版編集者から学術書出版に必要な知識や情報をアドバイス。2013年実施、60名参加。

アカデミック・キャリアセミナー

アカデミックポストに就いた若手研究者の体験談を通して、研究への姿勢、自己アピールの仕方、支援制度の利用などを情報提供。2014年実施、40名参加。

○若手研究者支援情報配信（PD）

アウトリーチ・広報　研究成果をプロデュース

○広報誌：大学院案内・学部案内・英語版パンフレットの制作。

○書香の森：玄関ホールに設置された教員著書の展示スペース。
北海道大学所蔵美術品悉皆調査成果『美術の北大』において絵画作品展示の支援。図書の特集展示のほか、教員が自著を紹介する「プラス1ピースの読書会」を企画開催。

○出版支援：文学研究科ライブラリの編集、図書出版助成に関する支援。

○人文学カフェ：2009年より紀伊國屋書店オープンスペースにて開催。
2015年11月に17回目を開催予定、iTunesU等で動画配信。
延べ来場者数：約2000人　動画総アクセス：約6万visit
『1Q84』カフェは高麗大学校との交換コンテンツとして韓国語版制作。

○ウェブサイト：Lab.letters 研究室からのメッセージ(各教員の教育研究紹介)
全教員にインタビュー実施。記事掲載後、大学院受験者の増加。
2014年リニューアル：スマホ対応、SNSとの連動ボタン追加。

○企画展示：北大インフォメーションセンター、附属図書館渡り廊下、札幌地下歩行者空間での各種企画展示（札幌国際芸術祭連携企画）。

人社系・部局URAとしての展望

人社系URAの特徴

○研究力分析の評価指標が多軸にわたる

重層的なデータをどのように客観化するか？　理系と同様に、IFなど数値化できる領域もあるが分野によっては、単純な数値化が困難な領域がある。プレスリリースを打つ難しさ。
"強み"の分析、今後の研究推進の重点強化項目の見極めに、知識と経験が求められる。

○多言語・多文化対応

話者数減少による「危機言語」や古代語も含めると、50以上の言語研究が行われている。
大学院生の4割が留学生。多言語を使いこなすことより、多文化への理解と対応が求められる。

○図書出版が業績に占める割合が高い

一般向けシリーズでは、章立て、表現や図版について助言を行う。
URAは、編集者としての力量も求められる。
著書のアウトリーチ支援：読書会、web連動企画＝web書香の森

○地域密着型・市民目線の地域連携

地域の文化を支え育む取り組み：札幌国際芸術祭連携企画、人文学カフェなど街に飛び出す企画。
地域住民とともに課題解決：地域のゴミ問題、文化財保護など地域と連携した研究の支援、広報。

部局URAの特徴

○対話型テーラーメイド支援

支援対象者：教員約100名、大学院生・ポスドク約500名規模
教員全員の研究内容の概要を把握でき、個別対応できる強みがある。
出張、学会発表、原稿締切など研究者個別の予定に合わせたスケジューリングが可能。URAは、研究や申請のペースメイカーとしての役割が期待されている。

○研究のみならず教育支援も

ポスドクなど若手研究者だけでなく、大学院生向けの教育的性質をもつ支援も積極的に行っている。
スーパーグローバル大学創成支援事業に関連して、教育プログラムの実施支援を始めた。プログラム開発や海外のトップランナーとの交渉に積極的に関わり、きめ細やかな対応をしている。

○教員・事務職員・URAの協働プロジェクト

2013年3月、部局の教員、事務職員、URAが協働して東京で国際シンポジウム開催（札幌にも同時中継）。この成果は、オープンコースウェアにて動画配信されるとともに文学研究科ライブラリとして刊行、URAはこの編集に関わる。この図書は、北海道大学新渡戸カレッジの教材として、また地元高校への出前授業に活用される。

課題と今後の展望　～スキルアップと広角的な連携強化～　さぁ、つながろう、みんなで！！

○URAとしてスキルアップ

個々の研究分野の動向に則した、研究内容に踏み込んだ支援が行えるようにスキルアップ！
研究力の分析を行った上で、今後の組織の運営や研究推進について、研究戦略立案・マネジメントを行えるようスキルアップ！

○北大URAステーション・国際本部・学内他部局の研究支援者との連携

研究者情報提供、セミナーの共同企画開催、国際交流に関する情報交換、グローバル化対応など、徐々に連携はできつつある。今後は、外部資金獲得やプロジェクト企画立案といった面でも積極的に情報交換し、連携を密にしていきたい。

○部局内事務組織との連携

部局内の事務担当者との協力は円滑な研究推進業務を進めていく上で必須。事務組織の流儀を尊重し、かつ、事務職員から多様な事務手続きを学びつつ、機動力のある業務の進め方を模索中。研究者も事務職員もともに効率的に仕事を進める仕組みづくりを工夫していきたい。

○学外関係者との連携を希望します

皆さんが所属している組織では、どのような課題と展望をお持ちですか？人社系支援、部局支援を行っておられる方はもちろん、研究推進・支援に関わっておられる方はどなたでも、わたしたちと情報交換をしましょう。つながり、語り合い、そして創り出していきましょう！

北海道大学大学院文学研究科　研究推進室
Research Management Office
Tel：011-706-4083　E-mail：letura@let.hokudai.ac.jp